

# 「介護施設ならではの」のターミナルケアを進めるために

介護保険市民オンブズマン機構大阪

〒537-0025 大阪市東成区中道 3-2-34 JAM大阪 2 F

## 助成事業の概要

1、実施目的：高齢者の看取りの場としての役割も期待され、取り組み施設も増えつつある介護施設だが、「夜間急変時の対応」や「介護職員としての役割」「家族へのサポートのむずかしさ」などに悩みを抱える職員も多い。「介護施設におけるターミナルケアとは何か」医療現場とは異なる「福祉モデル」のターミナルケアをどう構築していくのかについて、経験豊富な施設の取り組み・助言から学び、自施設でのよりよい実践につなげていく。

2、開講日：11月12日（木）午前10時15分～午後4時10分 ドーンセンター 特別会議室

3、内容：特養・有料老人ホーム・グループホームなど介護施設の施設長・介護職員・看護師など80名が参加。午前中の「基調講演」は、福森潔寿光園施設長が介護施設のターミナルケアの現状と課題、関わり方、福祉モデルの看取りとは何かについて講演。午後の「実践報告」では、特養・地域密着型特養・グループホームの3施設の関係者が、自施設での看取りの実際・課題への取り組み・連絡体制や研修の充実などについて語った。「助言と意見交換」では、事前に募った質問をもとに、その回答・助言を交えながら、看取り介護を実施している3人の施設長が意見交換を行った。

## 事業の成果

(1) 高齢者介護施設で日々活動している市民オンブズマンが施設関係者と協力して企画した研修だが、受付開始から受講申し込みが相次ぎ、9月には早々と定員に達した。そうした点で、「介護施設ならではのターミナルケア」という、まさに介護業界の動向を把握したタイムリーな企画設定で、施設および介護職員のニーズに応えることができた。

(2) 次の2点を、受講者にしっかりと伝えることができた。

①医療職主導になりがちな病院のターミナルケアと違って、家族・介護職・医療職がフラットで対等の関係のなかで、高齢者本人を囲み、見守りながら進めるのが、福祉モデルのターミナルケアであり、本人・家族の意向を最大限反映していくことに、何よりもその良さがあるということ。

②ターミナルケアは日々のきめ細やかなケアの延長線上にあり、同じ職場で働く仲間とのチームケアと、経験の積み重ねにより培われていくものだという事。

(3) 事前質問を寄せてもらうことで、受講者の多くは「家族との接し方・関係づくり」「夜間時の対応」「医療職との連携」「職員の教育やメンタルケア」に、不安や迷いをもっていることがわかった。

そのため「基調講演」や「助言と意見交換」ではそうした要望に応えた内容を盛り込むことができ

た。

(4) 事前に発表者と綿密な打ち合わせを行うことで、分かりやすく、かつ参考になる実践報告を聞くことができた。また、大規模特養、地域密着型特養、グループホームと、3つの違った形態の施設の関係者から三者三様の話を聞くことができ、介護施設のターミナルケアのあり方について受講者の視野や考え方を広げることができた。

(5) 基調講演の中で、受講者6人ずつが1つのグループとなり、受講動機や自施設のターミナルケアの現状について話し合う機会を設けた。受講者自身が抱える悩みの共有化や情報交換につなげることができた。また、一方的に受講するだけでなく、自らが発信者となることで、研修への参加意識を高めることができた。

(6) アンケート結果では、「大変良かった」「良かった」が73人と90%に上った。また「職場の同僚や知人に受講を勧めたい」も77名を占め、受講者から高い評価を得ることができた。

## ■ 成果の広報・公表

(1) 介護施設におけるターミナルケアとは、「①日々のきめ細やかなケアの延長線上にあり、同じ職場で働く仲間とのよりよいチームケアを通し、経験の積み重ねにより培われていくものである。②医療職主導になりがちな病院と違い、家族・介護職・医療職がフラットで対等の関係のなかで、高齢者本人を囲み、見守りながら進め、本人・家族の意向を最大限反映し柔軟に対応していくことに、何よりもその良さがある」ということを受講者にしっかりと伝えることができた。

(2) 受講申込時に質問したいことを事前に寄せ

てもらうことにより、「夜間時の見極め」「家族への説明・対応」「職員のメンタルケア」「医療職との連携」など多数を占めた質問への回答・助言を、「基調講演」や「助言と意見交換」で反映することができた。

(3) 基調講演の半ばにグループディスカッションを盛り込み、受講者同士で受講動機や自施設のターミナルケアの現状について話し合う機会を設けることにより、研修へのより積極的な参加意識を高めることができた。

## ■ 今後の展開

(1) 今回の研修は非常に申し込みが多く、9月には早々と定員に達したがその後も受講問い合わせが40件以上あった。受講者アンケート結果でも、「今後、研修があれば職場の同僚や知人に勧めてみたいと思うか」との問いに、94%に上る受講者が「勧めてみたいと思う」と答えている。今後も同様の研修を開催し、介護施設のそうした要望に応えていきたい。

(2) 受講者アンケート結果から、よりよいターミナルケアを行うことと関連して、「他職種との連携・工夫」「チームケアとチーム作り」に関するテーマでの研修を望む声があった。また、今回の研修をより掘り下げた内容で「ターミナルケアの実際、工夫のポイント、職員教育のしかた」や「看護師不在時の緊急対応」に関するテーマへの要望もあった。これらのテーマを多人数の集合研修で行うのは難しいため、自施設での課題を具体的にあげながらの実践研修になるかと思うが、職員研修実行委員会の委員たちが知恵を出し合い、ステップアップのための研修開催につないでいきたい。